

情勢報告

集落営農組織でブロッコリーの栽培に取り組んでいます



定植作業の息もぴったり。

「今年は、所得アップを目指します」

9月17日、奈半利町の集落営農組織「大原・西ノ平生産組合」が協業栽培のブロッコリーを21aの圃場に定植しました。

今年は昨年度までの反省に立って、振興センターの指導のもと収穫時期の前進化を目指し、8月上旬に播種しました。その後、天候不順により生育は遅れましたが、当日は、組合員10人が協力しました。

組合員からは、「害虫の発生や追肥のタイミングに気をつけたい」「今年は所得アップを目指したい」と意欲的な意見が出ました。

振興センターは、今後も生育状況を組合員と確認しながら、計画的に作業を進めていけるよう支援していきます。

将来の担い手に技術継承を～中芸ナス部会～



どこを測ればいい？

9月24日に中芸集出荷場ナス部会が開催され、9人が参加しました。そのうち3人は農家研修生、2人は新規就農者で、若者の参加が多い活気のある会となりました。

現地検討会では、振興センターは生育診断による樹の状態の把握方法を指導し、ベテラン農家からは研修生や新規就農者への栽培技術の熱心なアドバイスがありました。

今後も振興センターは、新規就農者や研修生にも生育診断手法や栽培技術が身に付くよう、部会活動や個別巡回で支援していきます。

新規就農者の育成に向けて、研修会の開催



JA役員から説明を受ける参加者

9月26日、田野町担い手育成協議会が主催し、中芸地区の新規就農者や研修生を対象に就農準備研修会を開催しました。

振興センターは関係機関と連携し、JA土佐あきの役員や担当者を講師に、JAの役割や事業など、地域で営農する上での関わりについての研修を企画しました。参加者からは、「設備投資等に必要な資金の借入れは？」など、具体的な質問が出ていました。

振興センターでは、今後も新規就農者の育成のため、関係機関と連携し研修会の開催や支援体制づくりを進めていきます。

食農教育体験交流会がおこなわれました



ルーペの使い方はわかるかな？

9月27日、田野町の大野倶楽部が食農教育体験交流会を開催しました。この交流会は、食農教育体験事業の一環で開催されるもので、振興センターは、「畑の虫」という題で、紙芝居と畑での観察会を指導しました。普段気がつかない小さな昆虫たちを見つけて、子供たちは大喜びしていました。その後、参加者は大野倶楽部メンバーの指導のもと、大根の播種とオクラの収穫体験を行いました。

この交流会は、11月と12月にも開催されることから、振興センターはスムーズに運営できるように、支援していきます。

初めての総会を開催しました！～土佐あき新施設園芸システム勉強会～



また1年頑張りました！

9月30日、JA土佐あき本所において、生産者等34人が出席し「土佐あき新施設園芸システム勉強会総会」を開催しました。

総会では、会員内で改めて「前年度の収量を上回る」という目標を共有し、個々の新たな取り組みについても発表・意見交換を行いました。また、振興センターが作成した生育診断調査と環境測定データの集計ファイルの活用方法を提示すると、生産者からは「これはすごい」「分かりやすい」等の声上がり、より積極的に環境制御に取り組もうとする姿勢が見られました。

今後も振興センターでは、当勉強会の活動に積極的に関わり、「環境制御」が地域に広がるように支援します。

水稻植え付け本数が収量に及ぼす影響の確認～「^{あいな}愛稲の会」～



1本植えてもこればあ分けつするがや

9月30日、馬路村相名地区では「にこまる」の収穫が始まりました。当会では、今年3月の水稻勉強会で、振興センターから「植え付け本数が多過ぎるのではないか」との指摘を受け、独自に植え付け本数を5段階に変えて植え付け試験を行っており、今回は収穫期の生育調査を実施しました。

「1本でもこんなに増えるがやね」、「これほど分けつするなら今までの植えすぎやおか？」等の意見が出ました。

今後、振興センターでは、刈り取り株を収量調査して最適植え付け本数などを提案していきます。

新しい微生物資材はアザミウマ防除に効果あり！？～唐浜ピーマン部会～



立ったままで株元に散布できる

唐浜集出荷場ピーマン部会（赤ピーマン）ではアザミウマ類の被害低減が課題となっています。その課題解決のため、10月7日に昆虫病原性糸状菌（メタリジウム菌）粒剤の実証試験を促成栽培5圃場で開始しました。手作りの散布機で株元に1株ずつ全株処理しました。実証試験では、アザミウマ類の野外からの侵入が多くなる10月（今回）と、厳寒期に土中にいる蛹防除をねらった1月の計2回、処理する計画です。

振興センターは今後、調査結果を唐浜ピーマン部会で定期的に報告し、その有効性を関係機関や部会と共に検討します。

お茶の出前授業～田野小学校と井ノ口小学校～



子どもだけでお茶を入れます

10月6日、田野町田野小学校で4年生18人に、また10月16日には安芸市井ノ口小学校4年生11人に東川農林センターで、茶生産者、JA営農指導員や振興センター職員が講師となって茶の出前授業を行いました。

両校とも、あらかじめ茶についてしっかり調べており、活発な質疑応答がなされました。生徒たちは授業中、メモをとり、お茶の入れ方も含め熱心に授業を受けていました。

振興センターでは今後も、お茶に限らず、出前授業の要請には積極的に対応し、子ども達が農業好きになってくれるよう働きかけを続けていきます。

栽培も終盤！千両現地検討会



今年の作は？

10月9日、JA土佐あき吉良川千両部会の現地検討会が行われ10人が参加しました。全員の圃場を回り、台風による実落ちなどが確認されました。また、予想出荷ケース数や出荷計画が話し合われました。11月下旬の収穫を前に、振興センターは灌水等の栽培情報の提供をしました。

振興センターは今後も関係機関と協力して、スリップスの捕獲調査結果を含めた、高品質生産の一助となる栽培管理情報を提供していきます。

27園芸年度の営農相談を始めました！



「予防散布で被害を防ぎましょう」
防除体系を説明中

10月9日に中芸集出荷場、10月10日に唐ノ浜集出荷場のナス生産者を対象に営農相談を開催しました。営農相談は、リアルタイムの栽培状況把握や栽培技術情報提供による個々の生産者の生産性向上を目的に、出荷場、JA営農課、振興センター共催で、10月～翌6月にかけて管内7集出荷場で毎月開催しています。

今回振興センターからは、多発すると収量に大きく影響する黒枯病やすすかび病、フザリウム立枯病の防除対策の情報提供を行いました。また土壌溶液診断を実施して、適正施肥を呼びかけました。さらに、茎径の測定等に基づいたリアルタイム生育診断の方法を紹介しました。今後も営農相談等を活用して、迅速な情報提供・共有を行っていきます。

産地のまとまりづくりに向けて～川北・伊尾木地区の施設ナスほ場一斉巡回～



「CO2 施用するとどうなるの？新情報をもっと知りたい。ほ場に出てきてよ」

10 月 10 日、振興センターは JA 営農指導課及び JA 支所と連携し、川北・伊尾木地区の施設ナスほ場 39 戸(内、個人市場出荷者 29 戸)を一斉巡回し、基本的栽培管理や環境制御技術等の情報提供を行いました。本巡回は「部会活動のない個人市場出荷者のほ場にももっと営農指導員や振興センターに来てもらいたい」との生産者の要望に応え、産地全体の栽培技術力の底上げ、生産者と関係機関との連携強化を目的に行ったものです。

振興センターは今後、JA 営農指導課、支所と効率的な現場指導の役割分担を行い、産地のまとまりづくりを図ります。

特別栽培米への深層水散布指導～東大野集落営農組織～



美味しくなあれ

田野町東大野集落営農組織は協同作業による収入源の柱として 1ha の特別栽培米の生産に取り組んでおり、さらに付加価値を与えるものとして海洋深層水を利用しています。

10 月 16 日、振興センターは JA 営農指導員と、収穫間近の‘にこまる’に、今作 3 回目となる海洋深層水の葉面散布の処理方法等を指導しました。

生産された米は地元学校給食米への利用の他、県内大手スーパーや地元の直販所で販売される予定です。

今後、振興センターでは食味計測を行い、総会時に皆で食味調査をして、特別栽培米を来年度も継続していくように提案していきます。